

様式11 指定管理者制度活用事業 評価シート

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	生田緑地、川崎市岡本太郎美術館、川崎市立日本民家園、川崎市青少年科学館	評価対象年度	令和3年度（令和3年4月～令和4年3月）
事業者名	<p>・事業者名 生田緑地共同事業体 （令和3年4月1日付で生田緑地日比谷花壇・日比谷アメニス・東急ファシリティサービス共同事業体から名称変更）</p> <p>・代表者名 株式会社日比谷花壇 代表取締役社長 宮島 浩彰</p> <p>・住所 東京都千代田区内幸町1丁目1番1号</p> <p>※構成員：株式会社日比谷アメニス、東急プロパティマネジメント株式会社 （令和3年4月1日付けで、東急ファシリティサービス株式会社から東急プロパティマネジメント株式会社へ商号変更）</p>	評価者	建設緑政局緑政部生田緑地整備事務所長 市民文化局市民文化振興室岡本太郎美術館副館長 教育委員会日本民家園長 教育委員会青少年科学館長
指定期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日	所管課	建設緑政局緑政部生田緑地整備事務所 市民文化局市民文化振興室岡本太郎美術館 教育委員会日本民家園 教育委員会青少年科学館

2. 事業実績

利用実績	<p>〔生田緑地〕利用者数：814,561人、駐車場利用台数：102,753台（内訳：東口駐車場：75,580台、西口駐車場：27,050台、生田臨時バス駐車場：123台）、東口ビジターセンター利用者数：250,957人、西口サテライト利用者数：10,522人</p> <p>〔岡本太郎美術館〕利用者数：81,944人</p> <p>〔日本民家園〕利用者数：101,664人</p> <p>〔青少年科学館〕利用者数：253,177人</p>
収支実績	<p><収入>指定管理料：410,278千円、利用料金収入（駐車場）：37,955千円、事業収益（売店等）：13,157千円、自主事業収益（イベント等）：12,775千円、その他収入（協賛金等）：3,447千円 計：477,610千円</p> <p><支出>管理運営経費等：472,499千円（うち間接経費（本部経費）22,500千円） 計：472,499千円</p> <p><収支差額> 5,111千円</p> <p>※令和3年度より間接経費（本部経費）を支出金額に計上。</p>
サービス向上の取組	<p>新型コロナウイルス感染症対策を講じながらの管理運営が続く中、次のとおりサービス向上の取組を行った。</p> <p>【情報共有】 緑地と3館のみならず、警備・清掃スタッフも含め情報を集約し共有を図ることにより、維持管理、利用に当たっての課題等について迅速かつ統一的な対応を行うとともに、大雪・大雨等が予測される場合の必要な備え及び応援体制を整え円滑に管理運営を行った。</p> <p>【利用マナーの向上】 アンケート形式や、虫かごを持っている親子等に声掛けしてルールがデザインされた団扇を配布する等による動植物持ち出し禁止等の啓発を行ったり、公募した「生田緑地の環境を守るためのポスター」を内容に見合った効果的な場所に掲示するなど、利用マナーの向上に努めた。</p> <p>【利便性の向上】 利用者の要望を受けて生田緑地ポストカードの作製、日本民家園のオンラインショップの開設、青少年科学館のミュージアムショップでのPayPayの運用開始により、利便性を高めると同時に、生田緑地の魅力のPRにつなげた。また、コロナ禍で利用者が増えた西口広場に試験的にキッチンカーを配置し、これまで西口付近に飲食がなかったことから好評を得た。</p> <p>【行事・イベント等】 日本民家園で開催されたプロジェクトマップ、青少年科学館50周年行事、サマーミュージアム代替として開催されたスプリングミュージアム等の大きな行事・イベントの成功に寄与した。</p>

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
	利用者満足度	利用者満足度調査を適切に実施しているか	8	4	6.4
		利用者満足度は向上しているか			
		調査結果の分析を行い、満足度向上のための具体的な取組に反映しているか			
	事業成果	事業実施による成果の測定が適切に行われているか	6	4	4.8
		当初の事業目的を達成することができたか			
自然環境の保全	市民との協働により自然環境の保全が図られているか	8	4	6.4	
魅力の向上	施設間の連携・多様な主体との連携により生田緑地全体の魅力の向上が図られているか	8	4	6.4	
	生田緑地全体広報が戦略的に展開され、魅力発信できているか				

(評価の理由)

【利用者満足度】

- 利用者満足度を把握するため、常設アンケート調査及び、四半期ごとのアンケート調査を適切に実施した。アンケート調査の利用者満足度では、令和3年度は平均で約62%の利用者から「とても満足した」、約35%の利用者から「満足した」との評価を得ており、合わせて約97%の利用者から「満足した」以上の評価を得て、第2期指定管理期間で最高となった。(参考：平成30年度約95%、令和元年度約94%、令和2年度約94%)
- 岡本太郎美術館において、スマートフォンによるアンケートを開始し、回答者へのカフェ10%OFFサービスを実施するなど回収率の向上に努め、若年層からの意見を多数得ることができた。

【事業成果】

- 月次及び四半期ごとのセルフモニタリングを実施するとともに、苦情・要望について情報共有し、必要な改善や対策を行うなど、利用者満足度の向上に努めた。下記「四年目の行動目標及び取組結果」では、設定した数値に至らなかった目標があったものの概ね事業目的を達成したものと評価する。
 - ・「コロナ禍における安心・安全な運営と広報・自主事業の新たな価値の創出」の目標については、地域が主催する大型イベント開催時にアドバイザーとして感染症対策を徹底させ、ノウハウを構築するとともに、感染状況の変化に伴う利用者からの様々な意見に耳を傾けつつ、理解に努め、感染症対策を徹底した。広報については、新たな工夫を加えたSNSやARを活用した広報を行うとともに、既存メディアの取材に丁寧に対応して掲載を増やし、駅その他の掲示板の装飾・掲示時期を目に留まるように工夫する等、幅広い年代・属性に向けた広報を積極的に展開した。また、緑地及び各館において、既存の自主事業への工夫や、新たな自主事業を数多く実施した。
 - ・「生田緑地全体利用者数85万人突破」の目標については、イベントが相次いで中止や延期となる中、目標の85万人には到達しなかったが、第2期指定管理期間で最も多い81万人超となった。
 - ・「各事業や活動の検証と利用者ニーズ把握による、継続と発展の促進」の目標については、利用者の声を取り入れ、スタッフが撮り貯めた生田緑地の魅力を伝えられる写真を使ったポストカードを制作し、緑地内及びかわさききたテラスで販売し、「生田緑地みやげ」として好評を得ることができた。
 - ・「青少年科学館 開館50周年行事の成功」の目標については、行事の催行及び50周年ロゴ入りフラッグの登戸・向ヶ丘遊園駅周辺街路灯への設置等による広報を展開した他、50周年にちなんだ商品開発を行った。

【自然環境の保全】

- 植生管理計画等に基づき、各団体と調整しながら管理作業を実施するとともに、希少植物について報告があった際にスタッフ全員で共有し盗掘の防止や草刈りの際の注意喚起等必要な保護を行ったり、外来種について、種や場所によっては花が終わるまで駆除しないなど、きめ細かな対応を各団体と連携して行った。生田緑地ビジョンの実現に向けて生田緑地マネジメント会議の諸団体等との良好な関係を継続した。
- 自然環境保全管理会議との協働により、「生田緑地の自然帳」としてナラ枯れや外来種・在来種といった、生田緑地のありのままの自然や、活動団体を紹介する広報紙を年2回発行した。また、ふりかえりプロジェクト会議で、市に対する「ナラ枯れ提言書」の取りまとめを行った。

【魅力の向上】

- 市が推進するナイトタイムツーリズムの一環として開催された日本民家園のプロジェクトンマッピング(2/23~3/31)では、必要な協力を行うとともに、広報や緑地内の除伐による竹を使用した園路の夜間装飾、飲食の出店等により、集客増に貢献した。
- 生田緑地80周年にあたり、スタッフがロゴマークをデザインし、広報に活用するとともに、ロゴマークの缶バッジを作製して、緑地内スタッフの着用及びボランティア等への配布によりPRしたり、利用マナーの啓発に活用した。「未来に残したい生田緑地写真展」について、広報を積極的に行い、感染症対策としてインターネットのみで公募したにも関わらず、138点の応募があった。作品は緑地内に掲示するとともに、入賞作品を使用したカレンダーを作製し、副賞として授与した。
- コロナ禍で3月にサマーミュージアムの代替イベントとしてスプリングミュージアムを開催した。直前まで開催の可否も不透明な中、コンサートや生田緑地の剪定木を利用した薪割り体験、焼き芋など、屋外での接触の少ないプログラムを取り入れ、老若男女に喜ばれるふれあいの場づくりを行った。また、市民活動団体の活動の様子や募集要項を新たなポスターにしたり、連絡先カードを作成してブースを設け展示した。
- Twitterによる広報では、見どころの情報の積極的な発信を継続するとともに、キャラクターを使用した人形劇風の動画を制作して発信する等の新たな内容を工夫し、フォロワー数が前年比177%となった。また、整備事務所のジオラマにキャラクターを配置し、写真を広報誌に掲載すると同時に現地でキャラクターと写真撮影できるARコンテンツを用意するなどの工夫を行った。岡本太郎美術館ではTwitterのフォロー&リツイートキャンペーンを行いフォロワー数の大幅増につなげた他、冬休み時期に告知活動を集中させることにより集客につなげた。SNSでは、ほかにフェイスブックによる広報や、専修大学のインターンシップの学生との協働による若い世代に向けたインスタグラムでの魅力発信等、多彩なツールによる広報を行った。
- これまで青少年科学館で行うことが難しかったワークショップを、事前広報なしでサプライズ開催したり、12星座や50周年記念デザインオリジナル缶バッジを制作・販売し好評を得た。また、岡本太郎美術館でジャンボフラワーなどの講座を新たに実施する一方、西口広場においてキッチンカーを配置するなど、新たな自主事業を多数企画・実施した。
- 藍染め講座・ワークショップにおいて、生地を2種類から選択制にしたり、参加者任意の柄付け、グラデーションを出した

利用者満足度

収支計画・実績	効率的・効果的な支出	計画に基づく適正な支出が行われているか	8	4	6.4	
		支出に見合う効果は得られているか				
		効率的な執行等、経費削減の具体的な取組は為されたか				
	収入の確保	計画通りの収入が得られているか	4	4	3.2	
		収入増加のための具体的な取組が為されているか				
	適切な金銭管理・会計手続	収入と預かり金等を区別し、適切に管理を行っているか	4	3	2.4	
		事業収支に関して適正な会計処理が為されているか				
	(評価の理由)					
	【効率的・効果的な支出】 ●経費全体に占める光熱費の割合の多い岡本太郎美術館及び青少年科学館を対象に電気使用量を「見える化」し、意識の向上を図るとともに、需要電力や空調の温度管理を徹底する等の対策を行った。この結果、電気料金の値上がりにもかかわらず、電気料は当初予算の36,900千円から33,463千円に抑えた。また、週末の駐車場の警備発注期限を委託先と交渉し、木曜日から金曜午前中に延長し、天気予報を直前まで確認してから発注することによりコストを抑えるなど、業務改善を行いながら、効果的・効率的な支出を行った。なお、支出全体では当初予算の467,620千円に対し、実績472,499千円と増加しているが、これは、当初予算では計上していない間接経費（本部経費）22,500千円を支出に計上したものであり、昨年度までの計上方法と同様、間接経費を除くと支出は449,999千円であり、当初予算から縮減されており、間接経費を入れた収支は第2期指定管理期間で初めてプラスとなった。間接経費については、これまでも事業収支報告の欄外に記載があったものであるが、間接経費を入れても黒字となったのを期に、今年度からより実態を反映するため、支出金額の5%相当の間接経費を決算額に計上するように扱いを変更した。					
	【収入の確保】 ●「駐車場の利用料金収入実績(37,955千円)」は、入園者数が伸びたことにより過去最高となった。「事業収益(売店等)実績(13,157千円)」は、日本民家園での物販において敷地内の桜の樹皮を使った草木染め製品やファミリー向け新商品の開発を行ったこと等により、第2期指定管理期間で最高の収入となった。「雑収入(自主事業収益)実績(12,775千円)」は、生田緑地利用者の増加に伴い自動販売機の売上が増加したことや、マルシェの開催を増やし、コロナ禍において地域の飲食店の売り上げの確保及び来園者への飲食の提供に貢献しながら収入につなげたり、ポストカード(発売9か月で1,880枚)や薪の販売や、機をとらえた自主事業の実施等により収入を確保し、やはり、第2期指定管理期間で最高の収入となった。これらのことから収入全体でも当初予算の467,620千円に対し、実績は477,613千円と、第2期指定管理期間で最高の収入となり、収入増加のための取組を積極的に行い、計画を上回る収入を得ることができた。					
【適切な金銭管理・会計手続】 ●納品書・請求書等の伝票管理を適切に行っており、報告書には支出費目ごとの内訳や月別・施設別の事業収支が添付されている。また、各館の観覧料を貯め置きしないよう入金ルールを徹底した上、繁忙期に釣銭の不足等が発生しないよう管理を行うなど、円滑かつ正確な入金及び両替管理を行っている。						

サービス向上及び業務改善	適切なサービスの提供	提供すべきサービスが仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	6	4	4.8
		サービスの利用促進への具体的な取組が為されているか			
		利用者への情報提供を適時かつ十分に行っているか			
	業務改善によるサービスの向上	実施計画と実際のサービス提供に「ずれ」が生じている場合、原因究明に必要な取組が為されているか	6	3	3.6
		業務改善が必要な場合に、現状分析、課題把握、改善策の検討と実施が行われているか			
		業務改善の取組によって具体的な効果があらわれたか			
	利用者の意見・要望への対応	利用者ニーズの把握に努め、それを事業や管理に反映させる取組が為されているか	6	4	4.8
		意見・要望の収集方法は適切だったか（十分な意見・要望を集めることができたか）			
		利用者からの苦情や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか			
	(評価の理由)				
【適切なサービスの提供】					
●東口駐車場において、委託警備員を配置しない日に満車となった際の右折入庫を抑制するため、左折入庫のお願いの案内を見やすい位置に設置し、ほとんどの車について左折入庫の協力を得ることができ、マナー向上につながった。					
●回答していくと生田緑地利用のルールを知ることができるアンケートの二次元コードを園内に3回にわたり掲示し、啓発を行うとともに、掲示場所と参加賞配布場所を別にするにより回遊性を高めた。また、夏季に虫かごを持っている親子等に声掛けを行い、「かんさつだいかんげい かんさつしたらかえしてね」というメッセージ入りの団扇を配布し、キャッチアンドリリースを促すなど、利用マナーの周知を工夫して行った。					
【業務改善によるサービスの向上】					
●実施計画どおりにサービスを提供できなかった場合は、毎月・4半期ごとのモニタリングで確認したうえで、その原因を追求し、次回以降はその改善点を踏まえて実施するよう努めた。					
●入園者数の増加に伴うトイレ利用時のマナーの悪化への対策として、クイズやPOPを制作して掲示を行い、美化促進を行った。					
【利用者の意見・要望への対応】					
●利用者からの苦情や要望の問合せに対して、迅速かつ適切に対応するとともに、状況に応じて速やかに市へ報告がなされた。毎月実施するセルフモニタリング等において苦情等の対応記録を市へ適切に報告された。					
●利用者から要望が多かった西口のバイク駐車について、試行として西口付近の園路に駐車スペースを設け、利便性を向上した。					
●令和3年度に顕著に被害が広がったナラ枯れについて、利用者からの多くの質問に対しその都度被害について説明するとともに、ポスターの掲示等により周知に努めた。					

組織管理体制	適正な人員配置	必要な人員（人数・有資格者等）が必要な場所に適切に配置されているか	6	3	3.6
	連絡・連携体制	定期または随時の会議等によって所管課との連絡・連携が十分に図られているか			
	再委託管理	再委託先との連携調整が適宜・適切に行われ、業務の履行についても適切な監視・確認が為されているか	2	3	1.2
	担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修が定期的に行われ、スタッフのスキルとして浸透しているか			
	安全・安心への取組	事件・事故、犯罪、災害から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか（人員配置、マニュアル、訓練等） 緊急時に警察や消防など関係機関と速やかに連携が図れるよう、連絡体制を構築し、定期的に情報交換等を行っているか	4	3	2.4
	コンプライアンス	個人情報保護、その他の法令遵守のルール（規則・マニュアル等）と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか			
	職員の労働条件・労働環境	スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備されているか	4	3	2.4
	環境負荷の軽減	環境に配慮した調達や業務実施が行われているか			
<p>（評価の理由）</p> <p>【適正な人員配置】 ●緑地内各施設において適切な人員配置を行い、事業遂行に必要な体制確保に努めた。また、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、スタッフが濃厚接触者になって出勤できない場合にも、各館スタッフが自施設以外の業務についてもサポートに当たり、円滑に運営した。</p> <p>【連絡・連携体制】 ●各館の業務責任者や施設長等が参加する全体会議を定期的開催し、情報共有の円滑化に努めた。また、各館の担当者等が参加する工程会議では、工事・展示関係による車両の進入情報や危険個所の情報、委託警備会社からの巡回警備の際に気づいた課題等を共有し管理運営を行った。 ●グループLINE等の活用により、迷子や救急車等の緊急時の各館への迅速な情報共有に努めた。</p> <p>【再委託管理】 ●毎月実施している所管課モニタリングにおいて日報や作業写真等の提出を受けており、適切に管理していることが確認できる。また、委託先の責任者がJV会議に参加し、課題を共有した。</p> <p>【担当者のスキルアップ】 ●スタッフの入れ替わりがあった際に接遇の質を保ち、既存のスタッフについてはさらなるレベルアップを図ることを目的に接客接遇研修を実施し、スキルアップに努めた。</p> <p>【安全・安心への取組】 ●夜間に震度4以上の地震が発生した際、日本民家園の警備本部と連携し、倒木をはじめとした危険個所を確認し、発見した場合には統括責任者及び緑地責任者に即時に連絡を入れる体制を整えた。 ●多摩警察署との情報交換を頻繁に行い、夏休みや花見シーズンなど、夜間の悪戯が多い時期に夜間のパトロールを依頼するとともに、東京オリンピック開催時の警備応援の際に駐車スペースを提供するなど、連携を強化した。また、随時実践的な内容の防災訓練を行い、日本民家園では多摩消防署との合同防災訓練を行うなど、災害時安全・安心の確保に取り組んだ。</p> <p>【コンプライアンス】 ●リスクマネジメント（Pマーク・ハラスメント防止）に関して各施設でテキストを活用するとともに確認テストを実施し、スタッフのコンプライアンスに関する理解を深めるなど適切な運用に努めた。</p> <p>【職員の労働条件・労働環境】 ●スタッフの労働環境の安全衛生や労働条件の確保を行い、業務を適正に実施した。川崎市契約条例に基づき適正に作業報酬の支払いを行った。</p> <p>【環境負荷の軽減】 ●廃材を活用し、土留めやベンチを作製したり、土砂の流出により段差が高くなりやすい土留め方式の階段の段数を増やし、段差を少なくする補修等を行った。 ●日本民家園の落ち葉清掃で発生した落ち葉で堆肥を作り、植栽に活用した。</p>					

適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	8	3	4.8
	管理記録の整備・保管	業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか。			
	外構・植栽管理(建物)	外構の植栽を適切に管理(草刈、剪定、害虫駆除等)しているか			
	備品管理	設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか			
	清掃業務	施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか	6	3	3.6
	警備業務	施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか			
	樹木等管理	協働による順応的な植生管理、四季の見どころとなる植栽管理が適切に行われているか	2	4	1.6
(評価の理由)					
<p>【施設・設備の保守管理】</p> <p>●年間業務計画に基づき適正な業務の遂行に努めており、業務日報等で適切に管理している。また、日常、定期点検を通じて設備不具合及びその兆候を発見した場合は、常駐技術員が内容を見極め対応を行った。清掃・設備に関する統括部門を発足し、業務のさらなる一元化に取り組んだ。</p> <p>【管理記録の整備・保管】</p> <p>●毎日の施設巡回により、設備や備品の不具合の早期発見と事故の未然防止に努めるとともに、管理記録を毎日の業務日誌に記録している。</p> <p>【外構・植栽管理(建物)】</p> <p>●施設ごとの植栽管理方針に基づき、適切に草刈、剪定等を行い、利用者が快適に楽しめる空間を提供した。</p> <p>●大雪による倒木や除雪作業が見込まれた際には、本部と連携し、開館前の巡回点検、除雪作業の本部支援体制を構築し対応した。</p> <p>●新たな植栽が難しい生田緑地内において、企業の技術を生かし、各施設内等に季節ごとや行事等の際に、花を使った季節を感じられる装飾を行った。また、除伐された竹による装飾や緑地内の藁による正月飾り、破損したカラーコーンに落ち葉を貼ったクリスマスツリーを作製するなど、維持管理作業等の副産物を有効活用した。</p> <p>【備品管理】</p> <p>●各施設で設備・備品の管理簿を作成し、適切な管理、整頓を行うとともに、備品台帳の更新を行った。また、消耗品等の補充を適時かつ十分に行った。</p> <p>【清掃業務】</p> <p>●休館日のないビジターセンターにおいて、日々の利用状況を清掃員と共有し、利用者の少ない時間帯や3館休館日に定期清掃を実施するなど、清潔な美観と快適環境の維持に努めるとともに、利用を妨げない工夫を行った。また、除草作業の多い日本民家園の開館前清掃をビジターセンタースタッフが行うなど、効率よく実施した。その結果もあり、利用者の増加にも関わらず、四半期アンケート調査において、約97%の利用者から「清潔だった」以上の評価を得た。</p> <p>【警備業務】</p> <p>●定期的に行われる会議において、委託先警備会社から、巡回警備の際に気づいた利用に当たっての課題等を共有した。また、通常の巡回監視エリアだけでなく、夜間の東口駐車場でのスケートボード等の禁止行為防止を目的とした巡回警備を行うなど、連携して対応した。</p> <p>【樹木管理】</p> <p>●生田緑地内で令和3年度に被害が激増したナラ枯れについて、3か月に渡り被害状況の調査を行い、1500本に上る被害木の各々について、被害木の種類、程度ごとに色分け等を行って図面に落とし込み被害状況の報告書を作成した。これにより、被害の全容の把握及び利用者及び近隣住民の安全確保のための伐採等の今後の計画に多大な貢献をした。</p> <p>●市民団体と協働で、生田緑地実生苗補植ガイドラインに基づきヤマザクラ実生苗をつつじ山に移植したり、あじさい山の花付きの悪い株を日当たりの良い場所に移植し回復を図るなど、見どころとなる植栽を充実させた。</p> <p>●日本梅の会の協力を得てウメの品種を同定するとともに、梅園更新管理について指導を受け、梅園管理に反映させるとともに、日本花の会の協力を得てサクラ類を同定し、結果を基に桜マップを作成し来園者へ情報提供した。</p>					

4. その他加点

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
その他加点	市の政策課題への取組	資源循環の取組	5	3	3
	(評価の理由)	<p>竹林管理における除伐による竹を、補修材や装飾に活用するとともに、市民団体と協働によりスタードームを作成し、ネットを貼って清掃時に収集した落ち葉を使って落ち葉プールとしたり、布を使って装飾し、中を展示スペースとして活用し、フォトスポットとしても好評を得ている。</p> <p>また、樹木管理業務で発生する木材を薪として自主事業で販売するとともに、イベントで使用したり、日本民家園での薪ストーブによる燻煙作業で得られた木炭を岡本太郎美術館の階段池の水質浄化に、灰を伝統工芸館で本藍の液を建てる際に使用するなど、生田緑地の横断的管理運営も生かし、余すところなく活用した。さらに、落ち葉を田んぼの堆肥や近隣療育センターにカプトムシ飼育用の腐葉土として提供したり、農業技術支援センターに提供するなど、生田緑地の特性を生かし、維持管理に伴う発生材を資源として緑地内外で持続的に活用する取組を行った。</p> <p>これらの取組は、生田緑地ビジョンの基本理念である「豊かな自然・文化・人・まちがともに息づき緑が繋げる持続可能な生田緑地の実現」の大きな一歩であるとともに、「川崎市持続可能な開発目標(SDGs)推進方針」に通じる取組として評価できる。</p>			

5. 総合評価

評価点合計	75	評価ランク	B
-------	----	-------	---

※評価ランクの適用基準

評価ランク	適用基準 (評価点合計)
A	総合評価の結果、特に優れていると認められる。(80点以上)
B	総合評価の結果、優れていると認められる。(70点以上80点未満)
C	総合評価の結果、適正であると認められる。(60点以上70点未満) ※標準点
D	総合評価の結果、改善が必要であると認められる。(50点以上60点未満)
E	総合評価の結果、問題があり適切な措置を講じる必要がある。(50点未満)

6. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

- 生田緑地の課題の一つである飲食の提供について、マルシェの回数を増やしたり、キッチンカーを西口広場に配置するなどの拡充を行ったり、日本民家園ミュージアムショップでの新たな商品開発や、オンラインショップの立ち上げ、青少年科学館で自主事業を新規に実施したり、日本民家園・岡本太郎美術館での自主事業の新たな企画等を行うとともに、積極的な広報を展開し魅力の向上につなげた。
- バイク駐車場の設置や飲食の展開など、これまで「裏口感」のあった西口に焦点を当てた取組みを行い、来園者の誘導に寄与した。
- 市民団体との協働による「どろんこ教室」、JAとの協働によるじゃがいも学校でのトウモロコシ迷路、水生植物鑑賞池に市民団体と協働によるシダ類の看板の設置や野鳥観察小屋の看板の更新、近隣大学と連携したファミリー向けイベント「はっけん!ようせいミュール」や「くるり」などへの協力など、協働により来園者への楽しみを提供した。また、日本民家園で古民家カフェを多摩区ソーシャルデザインセンターと連携して運営したり、多摩区観光協会と連携した広報の実施等、地域との連携を行い、さらに、マルシェの回数の増加により、近隣店舗の収益への貢献につなげた。
- 日本民家園のプロジェクトマッピング、青少年科学館50周年、コロナ禍におけるスプリングミュージアムなど、大きな行事・イベントについて、円滑な実施に協力するとともに、集客の確保等に貢献した。
- 樹木管理、清掃、警備等、日々の維持管理を地道かつ改善を加えながら行いつつ、上記の取組等を行ったことが利用者満足度及び清掃に関する満足度の向上につながり、来園者数も第2期指定管理期間で最多となった。
- 地域包括ケアシステムへの取組についても、幅広い層が参加する健康づくりのヨガイベント等、地域の交流や健康づくりの場として役割を果たしている。

7. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

- コロナ禍が落ち着いて移動に関する制約がなくなりレジャーの選択肢が広がる中、「近場」の生田緑地をレジャー先を選んでいただけるよう、更なる魅力の向上、積極的な広報、リピーターの獲得に取り組んでいただきたい。
- 利用者アンケートについて、スマートフォン対応等、引き続き効果的な実施方法を工夫しサンプル数を十分確保するとともに、利用者の要望や不安等の声に対応した内容等について、利用者からも「見える」ような対応をお願いしたい。
- 緑地内の維持管理作業による発生材の有効活用に関する取組を継続・発展させていきたい。
- 引き続き、安全・安心かつ清潔な公園の維持管理に努めるとともに、創意工夫により効果的かつ効率的な支出及び魅力的な自主事業の実施等により収入の確保に取り組んでいただきたい。